

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校がこれまで培ってきた伝統と教育活動を活かし、ものづくり教育を中心とした工業教育を実践するとともに、平成 26 年度入学生からインターンシップや地域連携等に重点を置いた「地域産業連携重点型」工科高校として再出発する。なお、本校のミッション（使命）は、「地域社会のリーダーとなり得る人格を兼ね備えた、ものづくりのスペシャリストの育成」であり、『「地域の宝」となる！』というスローガン（標語）のもと、優れた工業技術や創造性を有する人材を育成する。

- 1 国際的な工業人として人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人間性と社会の基本的なルール・マナーを身に付けた、工業のスペシャリストを育成する学校。
- 2 大阪府のリーディング・テクニカル・ハイスクール（LTH）として、府内の工科高校の先導的役割を担い、生徒・保護者・府民の信託に応える学校。
- 3 学校行事や部活動への積極的な参加を通して、礼儀正しい挨拶や規範意識などの社会性を身に付けた生徒を育成する学校。
- 4 地域の「ものづくり教育」の発信源となり、地域に根ざし、保護者や地域から『地域の宝』と信頼される学校。
- 5 生徒から『入学してよかった』『学んでよかった』『卒業してよかった』と言われる学校。

2 中期的目標

1 基礎的・基本的な学力と技能を定着させる学習指導の推進

- (1) 基礎学力の早期定着を図るため、教科横断的な授業を展開するとともに、授業規律の徹底を全教員で実践する。
- (2) 少人数授業や習熟度別授業等を導入し、「わかる授業」「楽しい授業」「規律ある授業」をめざして、教員の授業力の向上を図る。
- (3) 授業公開・研究授業などを充実させて、授業内容や指導方法の改善を図る。

※授業公開週間を年 2 回実施：研究授業を年 3 回実施：生徒の授業満足度 70%以上を毎年 5%引き上げて、H28 年度 80%以上

2 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進

- (1) 「ものづくり教育」を通して専門性を高め、産業基盤を支える技術と技能など工業技術の進歩に対応できる能力を育成する。
- (2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、キャリア教育の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を育成する。
- (3) 生徒の個別の特別支援計画や指導計画などを作成して校内の支援体制を充実させて、「わかる授業」の推進と中途退学者の減少を図る。

※企業見学＝2 年生全員参加、就職内定率の 1 次内定率を 70%以上で卒業時の最終内定率 100%、進路希望満足度 90%以上。

3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成

- (1) 家庭と連携した望ましい基本的生活習慣の確立と、社会性や規範意識、公共心をはぐくむ規律指導を徹底する。
- (2) 地域の関係諸機関と連携した生命、安全、人権に関わる指導を充実する。
- (3) 部活動や学校行事等の活性化を図り、安全で安心な学校づくりに努め、生徒の愛校心を育成する。

※遅刻指導＝1 年ごと 10%減、H28 年度 20%減：退学率＝1%以内：進級・卒業率＝95%以上
クラブ加入率＝1 年ごと 5%増、H28 年度 60%以上

4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり

- (1) 『地域の宝』をキーワードに、ものづくり教育を生かした社会体験やボランティア活動を積極的に行い、学校の PR 活動を推進する。
- (2) 地域連携推進校として、地域企業と連携してイベントを行い、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力を向上させる。
- (3) 平成 27 年度の創立 90 周年式典に向けた準備委員会の充実。

※中学校訪問数＝年間 100 校以上：学校 HP＝月 2 回更新：卒業課題研究発表会の開催：学校 PR イベントの参加＝年間 3 回以上

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、昨年度より公開授業見学会や研究授業を組み入れた授業を実施し、授業力の向上に取り組んだ。 生徒向けアンケートの「授業はわかりやすい」の項目では、普通科目が65.5%（前年61.8%）、専門科目が64.3%（前年56.8%）であった。昨年度と比較すると3.7%と7.4%の増加であり、普通科目・専門科目とも60%以上となった。 教員向けアンケートの「習熟度別授業をおこなうべきだと思う」の項目では、85.4%（前年76.0%）であった。授業力の向上の取組みとともに、習熟度別授業やそれに変わる方策の検討が必要であるが、教員数も決まっていることから難しい状況である。 生徒向けアンケートの「もっと、“ものづくり”（作品製作の実習など）をしたい」の項目では、68.8%（前年71.6%）であった。 教員向けアンケートの「“ものづくり”を活発におこなうべきだと思う」の項目では、93.8%（前年86.0%）であった。この結果から、実習やクラブ活動等においても、“ものづくり”を取り入れる工夫が更に必要である。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者向けアンケートの「学校の生徒指導方針に共感できる」の項目では、81.6%（前年83.5%）であった。 生徒向けアンケートの「学校生活についての先生の指導は納得できる」の項目では、70.2%（前年65.1%）であった。昨年の結果を踏まえ、生徒に対する指導において、丁寧に説明した結果である。 生徒向けアンケートの「悩みや不安を先生に相談することができる」の項目では、44.2%（昨年38.7%）であった。昨年の結果を踏まえ、生徒の様子の観察や声かけを重視した結果であり、教員のカウンセリングマインドの向上を更に高めていく必要がある。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員向けのアンケートの「人権教育の課題や指導方法について教職員で話し合っている」の項目では、60.4%（前年42.0%）であった。また、「学校の教育活動について教職員で日常的に話し合っている」が70.8%（前年58.0%）であった。教員同士の情報を共有の必要性や、身近な同僚からお互いに学び合う意識の向上により、18.4%と12.8%の増加となった。今後は、この意識の向上を効果的に生徒指導につなげていく学校運営が必要である。 	<p>第1回(5/30)</p> <p>OH26 学校経営計画の目標設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブ加入率60%の目標については、生徒のアルバイト等により達成が難しいと思われる。目標値を変えてはどうか。 インターンシップの期間が1～3日であるが、7日間の長期を考えてはどうか。 授業公開と教員同士が相互授業公開をするイベントを取り入れてはどうか。（ピア授業公開） <p>第2回(10/10)</p> <p>OH26 学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格取得について、卒業生で資格が役に立っているか追跡調査をしてはどうか。 アンケートは在籍生徒だけでなく、卒業生にもアンケートをとってフィードバックしてはどうか。 アンケートで全くあてはまらない場合は、理由を聞くようにすればどうか。 補習について回数ではなく時間にしてはどうか。 公開授業の時、お互いに感想（評価）を出すようにすれば、授業改善ができるのではないか。 <p>第3回(2/9)</p> <p>OH26 学校経営計画の達成状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成状況の自己評価（案）については、特に変更するところはない。 次年度の目標として <ul style="list-style-type: none"> 資格取得の目標については、合格率から合格者数に変更する。 退学率1%の目標は厳しいので、2%未満にする。 クラブ加入率60%以上の目標は厳しいので、50%以上に変更する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎的・基本的な学力と技能を定着させる学習指導の推進	<p>(1) 基礎学力の早期定着を図るため、教科横断的な授業を展開するとともに、授業規律の徹底を全教員で実践する。</p> <p>(2) 少人数授業や習熟度別授業等を導入し、「わかる授業」「楽しい授業」「規律ある授業」をめざして、教員の授業力の向上を図る。</p> <p>(3) 授業公開・研究授業などを充実させて、授業内容や指導方法の改善を図る。</p>	<p>(1) 基礎学力の定着に向けた、早朝学習と放課後の階的補習授業の実施。 ・授業遅刻・中抜け・無断早退等の根絶（指導カードの活用）</p> <p>(2) 少人数授業や習熟度別授業を行い、生徒一人ひとりに応じた指導をする。 英語、数学、国語の3科目（H24：英語、数学、国語）</p> <p>(3) 公開授業見学会や研究授業を組み入れた授業を実施して授業力の向上を図る。 ・生徒の興味や関心を引き出し、学習意欲を向上させるために、ICT機器を活用した体験的な教材や指導法を研究・開発する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の補習回数 50回以上 ・生徒の学校楽しい満足度 80%以上（H25 54.2%） ・生徒の授業よくわかる理解度 80%以上（H25 65.9%、専 79.2%） ・公開授業見学会実施 年2回実施 ・公開研究授業 年間2回実施 ・教員研修の実施 年2回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語 漢検2回、作文指導100名 ・数学 補習140回 ・英語 英検40回実施(◎) ・満足度 54.4% (Δ) (1年 53.8%、2年 53.6%、3年 55.4%) ・理解度 学校全体 69.2%(Δ) ▽普通科目 65.5% (1年 65.4%、2年 59.6%、3年 70.9%) ▽工業【座学】 64.3% (1年 69.9%、2年 60.8%、3年 61.4%) ▽工業【実験・実習】 77.9% (1年 78.2%、2年 79.2%、3年 75.7%) ・公開授業週間1回、実習見学会1回実施 (○) ・11月、12月、1月で7回実施 (○) ・教員研修1回実施 (Δ) 5/22「基礎学力の充実に向けて」
2 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進	<p>(1) 「ものづくり教育」を通して専門性を高め、産業基盤を支える技術と技能など工業技術の進歩に対応できる能力を育成する。</p> <p>(2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、キャリア教育の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を育成する。</p> <p>(3) 特別支援委員会を活用し、校内の支援体制を充実させて、生徒に応じた「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成・活用することで、「わかる授業」を推進と中途退学者の減少を図る。</p>	<p>(1) ものづくり教育を推進するため、機械加工技能士、電気工事士、色彩検定、情報処理能力検定などの資格取得に取り組む。</p> <p>(2) 学校設定科目「キャリアプランニング」、「キャリア実現」を活用して、正しい職業観・勤労観や各種の職業に関する知識の理解を深め、進路の自己選択につなげる。 ・進路に関する講話などを計画的に行い、インターシップや企業見学など職業観育成のための取組みや進路選択の情報提供を充実させ、進路決定の意識を向上させる。</p> <p>(3) 各分掌や教科担当者と担任団が連携し、学習支援や相談機能を充実させ、「わかる授業」の確立と中途退学者の防止を図る。 ・特別支援委員会を活用して、生徒の問題の早期発見と解決を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種資格取得の合格率を70%以上（H25 68.3%） ・入学満足度80%以上 ・就職1次内定率70%以上、最終100% ・三者面談を年間3回実施 ・インターシップ 就職希望者50%以上 ・進路講話3回以上 ・希望進路決定率100% ・教員研修 年2回実施 ・個別の教育支援計画の作成 ・卒業・進級率95%以上 ・退学率1%以内（H24 1.22%、H25 1.22%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・合格率 59.7% (Δ) 受検者 1,436名、合格者 858名 ・満足度 60.8% (H25：58.4%) (Δ) (1年 61.3%、2年 57.2%、3年 63.3%) ・1次内定率 87.4% (H25：74.7%) (◎) 合格 152名、不合格 22名 ・三者面談3回実施予定 (○) 6月、11月、3月 ・インターシップ参加 80名（7月実施） 就職希望者の43.2%が参加(Δ) ・進路講話 6回 (○) ・1名就職未決定 (○) ・教員研修3回実施 (○) 7/3 「就職面接について」 12/11 「家庭裁判所の手続きと非行少年」 1/8 「学校カウンセリング」 ・個別の教育支援計画 6名分作成 (◎) ・卒業・進級率は年度末 (一) ・退学率 2.46%(×) 転学 15名、退学 20名
3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成	<p>(1) 家庭と連携した望ましい基本的生活習慣の確立と、社会性や規範意識、公共心をはぐくむ規律指導を徹底する。</p> <p>(2) 地域との関係諸機関と連携した生命、安全、人権に関わる指導を充実する。</p> <p>(3) 部活動や学校行事等の活性化を図り、安全で安心な学校づくりに努め、生徒の愛校心を育成する。</p>	<p>(1) 基本的生活習慣を確立するために、担任団と生活指導部が連携し、学年別の生徒情報交換会で課題のある生徒の情報の共有化を図る。 ・校則遵守を徹底し、日常的に全教員が頭髪、服装、携帯電話等についての指導を行う。また定期的に全校的な指導を実施し、規範意識の向上を図る。 ・日常的なHR担任による遅刻・欠席指導だけでなく、毎月始め一週間を全教員による朝の校門指導を実施する。</p> <p>(2) 中高連絡会の実施 ・外部講師による講話など実施して、落ち着いた学習環境と他の人を尊重する心を養う。</p> <p>(3) 個々の生徒の特性に応じた部活動への加入を勧め、全学年において、教員と生徒のつながりを深めると共に学校への愛着心を持たせる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報交換会 年間2回実施 ・指導件数10%減少（H25 20件48名） ・全校集会 年間6回（H25 6回） ・遅刻回数 前年度20%減（H25 1,516回） ・中高連絡会 年3回 ・外部講師の講演会 年2回 ・クラブ加入率 3年間60%以上（H25 41.7%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報交換（各学年）2回、1年個別2回実施 (○) ・指導件数 13件26名 27.8%減 (◎) ・全校集会 7回実施、3月1回予定 (○) ・遅刻回数 1,489回 前年度比 1.8%減 (×) ・中高連絡会 8回実施 (◎) ・講演会 3回実施 (◎) 5/7「障がい者とともに」 10/15「平和と命の大切さ」 11/19「国際多文化理解」 ・クラブ加入率 44.6% (Δ) 358名（運動部188名、文化部170名）
4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり	<p>(1) 『地域の宝』をキーワードに、ものづくり教育を生かした社会体験やボランティア活動を積極的に行い、学校のPR活動を推進する。</p> <p>(2) 地域企業連携推進校として、地域企業と連携してイベントを行い、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>(3) 平成27年度の創立90周年式典に向けた準備委員会の充実。</p>	<p>(1) 出前授業「ものづくり教室」や体験授業などを実施する。 ・本校の特色ある教育活動を広く中学生及びその保護者に周知していくため、組織的に中学校訪問等の広報活動を行う。</p> <p>(2) 地域の企業と連携を図り、工科高校のPR活動のイベントを行う。 ・専門系専科の学習内容や特色ある教育活動がわかるPR用パンフレットを作成して、近隣の中学校に配布する。 ・ものづくりに関する競技に積極的に参加出場する。 ・地域の企業や中学校の教員を招いて、学校全体で3年生の卒業課題研究発表会を実施する。</p> <p>(3) 創立90周年に向けた事業内容等の検討を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業 5回以上（H25-3校、2回） ・中学校訪問数 100校以上（H25-102校訪問） ・各種イベントの参加（3回以上） ・広報用パンフの作成 ・マイコンカーラリー、エコデンレースの入賞 ・課題研究発表会 外部来場者20%増員（H24 32名、H25 47名） ・準備委員会 年2回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業 1回 (Δ) ・中学校訪問 115校 (○) 9月55校、11月60校 別途、産業創造系の説明で訪問実施 ・各種イベント 10回参加 (◎) ・広報用パンフ H26.4作成 (○) 新パンフは、H27.5作成予定 ・マイコンカーラリー Basic Class 近畿準優勝、全国第6位 エコデンレース 充電池部門 全国第3位 (◎) ・課題研究発表会 企業35名、府教委2名 中学教員1名、学校協議会等5名 保護者18名 計61名 (○) ・準備委員会 3回実施(○) 5月、9月、3月